

## 修了生 からのお便り



中松 睦浩 (なかまつ むつひろ)

千葉県大学院派遣研修生として平成19年4月から上越教育大学大学院生活・健康系コース(保健体育)に在籍し、平成21年3月に修了。現在は千葉県公立小学校の教諭として勤務する。

# 上越から明日の体育を

「運動会で1番になりたい。」「走り幅跳びで遠くに跳びたい。」「子どもなら誰でも願うことです。」「今日は50mの記録を計ります。」「という、どの子も決まって緊張した面持ちをします。」「今日は調子が悪いからなあ。」「などと、走る前から言い訳をする子。すぐにアップを始める子。子どもによって様々ですが、共通の願いは「速く走りたい。」「です。この子どもの願いを実現するべく、教師は日々教材研究に励み、子どもの実態をふまえながら実践を行っています。」

私は、地元の先輩方の薦めもあって千葉県大学院派遣研修生として本学の大学院に在籍しました。教職に就いて15年経った時でした。これまでは、先輩方の教えを基にしたり、様々な教育実践などを参考にしたりしながら、子どもへの指導にあたってきました。しかし、私が行ってきた指導の一つ一つを深く掘り下げてみると、それらの指導に根拠と言えるものが全くなく、全て経験と勘を頼りに行っているものでありました。そこで、これまで行ってきた自分の実践について、「これがこの指導の根拠だ。」と言えるものが見つければと思います。派遣研修生に挑戦しました。大学院ではバイオメカニクス研究室に所属し、小学生の陸上競技における動作分析を中心に研究を進めてまいりました。その他にも、運動方法学・体育心理学、体育科教育学等の講義を受講することができ、正課体育の

充実に必要不可欠な知識を新たに得ることができました。

バイオメカニクスは、小学校体育に直接結びつきにくいと考えられがちな分野です。しかし、運動場面における動作を分析し、それを指導に生かすことができれば、私自身が常に疑問に感じてきた、効果的な指導法の根拠となるものに対して確信をもつことができるとようになります。

この4月から小学校の教育現場に復帰しましたが、早速、上越で学んだことを生かす機会がありました。私が在籍している地域では、毎年、5・6年生を対象に、春に陸上競技大会が開催されます。私が着任した小学校では、朝と放課後に全職員で指導にあたります。先生方は学級指導等で忙しい中指導にあたってくださるので、体育主任としては少しでも効果的な指導法を伝達できればと考え



ると同時に、子どもたちに記録が伸びたときの喜びを多く味わわせてあげたいと思いました。その場面で、大学院で学んだことを生かすことができたのです。一つの例として、走り高跳びの「はさみ跳び」で記録に伸び悩んでいた子どもには、陸上の授業で学んだ「はさみ跳び」と身体重心の位置関係を思い出し、跳躍時のポイントをアドバイスすることができました。ハードル走では、大学院で研究したフラットボードの効果を指導に生かし、短い練習期間ではありましたが、走力を伸ばすことができました。また、さらに嬉しかったのは、私の研究を地元の先輩が活用して、ハードル競技で優勝者を出すことができたことです。後輩には、研究のまとめを渡したのですが、彼は自分でフラットボードを購入し、ハードル走の指導にあたったそうです。大会当日の夜に喜びの電話をいただいたときには、私も自分のことのように喜びました。

今回は、課外活動での陸上指導における成果を実感することができましたが、正課体育での指導においても大学院で学んだことが生かされるように研究を進めてまいります。

私たち生活・健康系コース(保健体育)の送別会では、毎年会場に「上越から明日の体育を」という横断幕が掲げられます。私と学業をともにした仲間、新潟だけでなく、埼玉、長野、静岡、栃木、など多方面で教育活動に携わっています。私たちが上教大の修了生が、自然豊かな上越の地で培った知識を全国に発信することによって、子どもたちが未来を築いていく導きになることと確信しています。